沖縄県立博物館・美術館中長期計画

沖縄県立博物館・美術館

平成 28 年 3 月

目　次

第１章　はじめに 2
１　計画策定の背景と意義 2
２　計画の期間 2
３　上位関連計画等 2
第２章　これまでの活動と課題 4
１　博物館の活動状況 4
２　美術館の活動状況 7
３　博物館・美術館共同事業 9
４　施設の利用状況 9
５　今後 10 年間で対応すべき課題 12
第３章　活動の基本方向 13
１　沖縄県立博物館・美術館の基本的な使命 13
２　沖縄県立博物館・美術館の地域社会における役割 13
３　目指す将来像 14
４　目指す将来像を実現するための取組方針 14
第４章　基本的な活動計画（将来像の実現に向けた取り組み） 16
１　重点取組 16
（１）本来的機能を高める 16
（２）県民・観光客等来館者との関わり方を深める 18
（３）県内外とのネットワークを強化する 21
（４）期待される社会的役割に貢献する 23

沖縄県立博物館・美術館中長期計画

－開館 10 周年、そして次なる 10 年間の新たなステージを見据え、歩み出す－

第１章　はじめに

１　計画策定の背景と意義

沖縄県立博物館・美術館が開館して 8 年が経過しました。この間、当館では沖縄の自然・歴史・文化・芸術に関する資料の収集・保存、調査研究を行うとともに、その成果の公開・普及・発信に取り組んできました。そして、当館の総入館者数は累計で 300 万人を超え、平成 25 年度には開館当初の目標であった「年間入館者数 50 万人」を初めて達成しました。

一方、開館以降の当館を取り巻く情勢変化を見ると情報通信技術（ICT）が大きく進展し資料の展示・公開の方法が多様化しています。また、近年では国内外からの観光客数が大幅に増加していることから、県民を対象とする社会教育施設としての役割に加え、自然・歴史・文化・芸術作品の展示を通して沖縄を総合的に紹介する文化観光施設として当館に対する社会的・時代的ニーズも高くなっていると考えています。

このような中において、平成 29 年(2017)の開館 10 周年を前にこれまでの当館の活動を検証し（第２章）、平成 34 年(2022)の日本復帰 50 周年という大きな節目をも見据えつつ、これからのあるべき姿・将来像を新たに描く（第３章）とともに、その実現に向けた具体的取り組みや、推進体制等（第４章）を定める中長期計画を策定しました。

なお、当計画の策定にあたっては、開館以来これまで当館で実施してきた来館者アンケート調査の結果も踏まえながら、県内外の学識者・有識者で組成する「委員会」、当館の学芸員・職員で組成する「部会」で検討を行いとりまとめました。

２　計画の期間

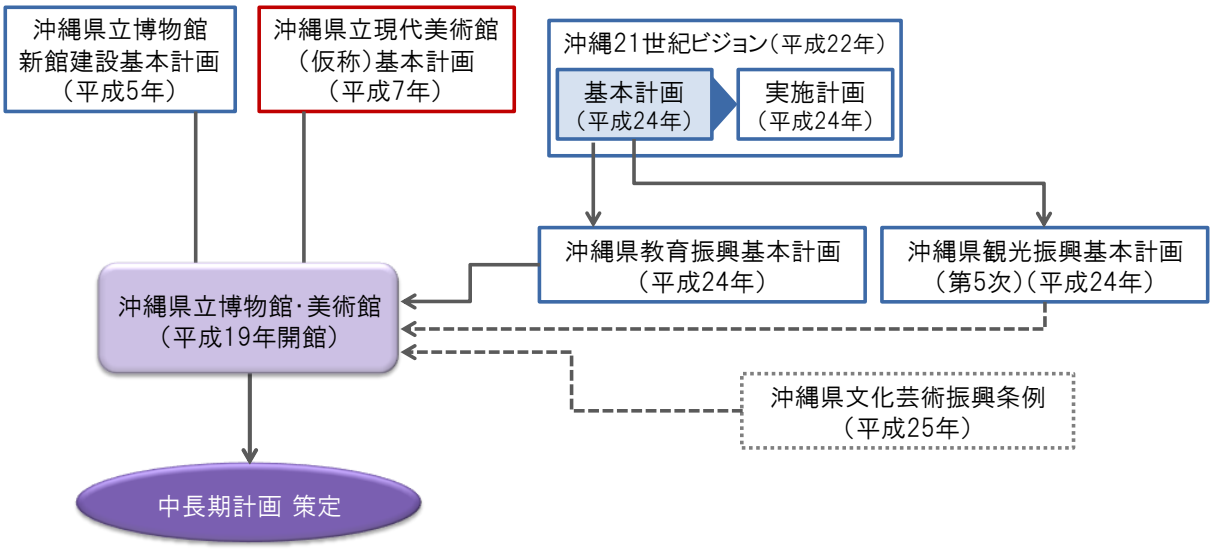
平成 28 年度（2016 年度）から平成 37 年度（2025 年度）までの 10 年間とします。

３　上位関連計画等

沖縄県が策定している上位関連計画等において、当館が県民の文化活動の基盤であり、沖縄県立博物館・美術館の充実は県の責務とされています。また、沖縄 21 世紀ビジョンでは、学芸員育成・研究体制・展示の充実を図ることで、平成 33 年度に入

館者 50 万人の目標が掲げられています。さらに、沖縄県教育振興基本計画では、平成 28（2016）年に入館者 50 万人、展示開催・年間 15 件の目標が掲げられています。

上位関連計画と沖縄県立博物館・美術館の位置づけ



図表1　関連計画に掲げられている活動計画・目標等

■沖縄 21 世紀ビジョン実施計画における成果指標

指標名		沖縄県の現状（基準年）	5年後の目標	10年後の目標	全国の現状（参考年）
1	県立博物館・美術館の入場者数	452, 502人（22年度）	487, 000人	500, 000人	―

■沖縄21世紀ビジョン実施計画における年度別計画

年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
博物館・美術館の管理運営（入館者数）	457,000人	463,900人	475,500人	475,500人	487,000人

学芸員育成、沖縄文化の研究体制や企画展示の充実

■沖縄県教育振興基本計画における成果指標及び活動指標

成果指標	現状値（平成22 年度）	目標値（平成28年度）	10年後の姿（平成37年度）
県立博物館・美術館の入館者数	452,502人	500,000人	企画展や文化講座等の充実により入館者数が増加し、本県の特色ある文化資源に対する県民の理解が深まっている。

活動指標	現状値（平成26年度）	目標値（平成28年度）
県立博物館・美術館における常設展・企画展・特別展の開催件数	15件	15件

出典）各種計画より作成

第２章　これまでの活動と課題

１　博物館の活動状況

（１）資料収集・保存管理

博物館は、平成 28(2016)年 3 月 31 日現在で、自然史（地質、動物、植物、菌類）、人類資料、美術工芸（絵画、書跡、彫刻、陶磁器、漆器、染織、その他）、歴史資料、考古資料、民俗資料で、93,865 件の収蔵資料を有しています。

博物館収蔵資料のなかには、7 件（29 点）の国指定文化財（重要文化財）と、41 件（98 点）の県指定文化財（有形文化財）が含まれています。

沖縄県立博物館・美術館　博物館所蔵の指定文化財

【国指定文化財（重要文化財）】　　2016 年３月 31 日　現在

種　別	名　　称	員 数	指定年月日	所有者
典　籍	おもろさうし	22 冊	昭 48.　6.　6	沖縄県
〃	混効験集	２冊	〃	〃
工芸品	銅鐘（旧首里城正殿鐘）	１口	昭 53.　6. 15	〃
〃	梵鐘（旧円覚寺殿前鐘）	〃	〃	〃
〃	梵鐘（旧円覚寺殿中鐘）	〃	〃	〃
〃	梵鐘（旧円覚寺楼鐘）	〃	〃	〃
歴史資料	明孝宗勅諭 琉球国中山王尚真宛	１巻	平 11.　6.　7	〃

【県指定文化財（有形文化財）】

種　別	名　　称	員　数	指定年月日	所有者
絵　画	絹本着色花鳥図（殷元良筆）	１幅	昭 54.　4.　9	沖縄県
〃	紙本着色雪中雉子の図（殷元良筆）	〃	〃	〃
〃	紙本墨画竹の図（殷元良筆）	〃	昭 57.　3.　4	〃
〃	紙本着色奉使琉球図（朱宰年筆）	１巻	〃	〃
〃	紙本着色冊封使行列図	〃	平 15.　7. 11	〃
彫　刻	木彫円覚寺白象並びに趣意書木札	１躯１枚	昭 31. 12. 14	〃
〃	世持橋勾欄羽目	１括	〃	〃
〃	旧円覚寺関係木彫資料	35 点	平 15.　7. 11	〃
工芸品	三線江戸与那	１丁	昭 31. 12. 14	〃
〃	聞得大君御殿雲龍黄金簪	１本	〃	〃
〃	黒塗螺鈿遊雁絵大文庫	１合	〃	〃
〃	黒塗堆錦山水絵大文庫	〃	〃	〃
〃	黒塗螺鈿雲龍文内金箔蓋付椀	１口	〃	〃
〃	枝梅竹文赤絵椀	〃	昭 54.　9.　3	〃
〃	線彫染付魚文皿	〃	〃	〃
〃	象嵌色差面取抱瓶	〃	〃	〃
〃	梵鐘（旧霊応寺鐘）	〃	昭 60.　6. 18	〃
〃	梵鐘（旧普門禅寺鐘）	〃	〃	〃
〃	梵鐘（旧天竜精舎鐘）	〃	〃	〃
〃	銅鐘（旧天尊殿鐘）	〃	〃	〃

〃	銅鐘（旧天妃宮鐘）	〃	〃	〃
〃	銅鐘（旧一品権現鐘）	〃	〃	〃
〃	梵鐘（旧大安禅寺鐘）	〃	昭 63.　1．12	〃
〃	黒漆薔薇堆錦軸盆	１枚	平 2.　2.　6	〃
〃	黒漆山水楼閣人物螺鈿机	１基	〃	〃
〃	朱漆山水楼閣人物箔絵丸型東道盆	１具	〃	〃
〃	朱漆巴紋牡丹沈金大御供飯	〃	〃	〃
〃	白密陀山水楼閣人物漆絵箔絵角盆	１枚	〃	〃
〃	梵鐘（旧永福寺鐘）	１口	〃	〃
〃	三線盛嶋開鐘附胴	１丁	平 6.　3．15	〃
書　跡	程順則の書	１巻	昭 42.　4．11	〃
〃	扁額「徳高」　鄭元偉書	１面	平元　9．29	〃
〃	扁額「凌雲」　林麟焻書	１面	〃	〃
古文書	宮古島下地の首里大屋子への辞令書	１幅	昭 31．12．14	〃
〃	伊平屋島仲田の首里大屋子への辞令書	１通	昭 53.　4.　1	〃
種　別	名　　称	員　数	指定年月日	所有者
古文書	羽地間切の屋我のろへの辞令書	１幅	昭 56.　3．20	沖縄県
典　籍	評定所格護定本　中山世鑑	６冊	昭 31．12．14	〃
〃	評定所格護定本　中山世譜	19 冊	〃	〃
歴史資料	銅鐘残欠（旧波上宮朝鮮鐘）	１口	昭 60.　6．18	〃
〃	安国山樹花木記碑	１基	平元　9．29	〃

（２）調査研究（総合調査、共同研究、分野別研究）

博物館における調査研究活動は、全学芸員が一地域を対象に実施する総合調査、他機関との共同研究、学芸員それぞれによる個別の調査研究があります。

総合調査では、県内離島において自然、歴史、民俗、考古、美術工芸、建築の基礎資料の掘り起こしと収集を行ってきました。久米島（1993・1994 年度）を皮切りに、波照間島（1996・1997 年度）、西表島（1998～2000 年度）、小浜島（2001～2003 年度）、与那国島（2004～2008 年度）、竹富島（2009～2011 年度）で調査を行いました。2012～2015 年度は鳩間島・新城島・黒島での調査を完了し、報告書を刊行しました。

共同研究事業としては、国立科学博物館、東京大学と共同で、南城市玉城のハナンダガマ遺跡（2006・2007 年度）、南城市玉城おきなわワールド内の武芸洞（2007～2010 年度）、2011 年度は武芸洞に加えて同敷地内のサキタリ洞を調査対象としました。2012 年度から「沖縄遺産のブランド開発・発信事業」としてサキタリ洞遺跡の本調査を実施し、これまで９千年前以前のものと考えられる人骨が発見されたほか、先史時代の貝器などが出土し、全国的に注目される貴重な成果が得られました。これら資料を公開する巡回展として、九州歴史資料館で「沖縄の旧石器人と人類の起源」展を開催しました。

分野別調査研究は、当館学芸員がテーマを設定し自主的に実施しているものや外部から依頼を受けて行うものがあり、その成果を論文として発表しています。

（３）展示公開

①常設展示

常設展示は、総合展示室と部門展示室で行われています。総合展示室では、「海と島に生きる―豊かさ、美しさ、平和を求めて―」をメインテーマとして、沖縄の自然・歴史・文化を「海洋性」「島嶼性」という２つの側面から紹介しています。部門展示室では美術工芸、歴史、民俗などそれぞれのテーマ設定に応じた展示があり、定期的に展示替えを行っています。

②特別・企画展示

特別・企画展示は、学芸員の調査研究に基づき年間 5～6 回程度行われております。

③屋外展示

博物館の中庭には、屋外展示として琉球の伝統的な高倉、民家が再現されています。

（４）教育普及活動

教育普及活動は指定管理者の業務に含まれており、博物館の教育普及担当によって主に企画され、指定管理者と連携して実施されています。博物館が企画する教育普及活動の他に、指定管理者が自主的に実施する教育普及活動もあります。

博物館の教育普及活動は、首里の旧博物館時代から取り組んできた「文化講座」などの活動に、新館ならではの事業として学芸員講座やバックヤードツアーなどを加えさらに発展させています。具体的な取組としては、以下のとおりです。

図表　博物館の主な教育普及活動

項目	活動内容
学校連携事業	教育課程の一環として博物館を学習の場として利用する学校団体への学習支援を実施。学校からの要望等を踏まえ、学校と当館が連携していく学習プログラムを作成。
体験学習教室	沖縄の自然や歴史、文化と結びつけた体験的な活動や、企画展等の展示内容と関連付けた活動を通し、参加者が郷土に関心を持ち、先人の知恵等を学ぶ機会を提供。
博物館文化講座（毎月１回）	博物館の展示内容と関連する自然史、人類、考古、歴史、美術工芸、民俗の各分野について分かりやすい内容で、県民が楽しく有意義に学習する機会として、講演、展示解説、実技指導、現地研修等を実施。
学芸員講座（毎月１回）	博物館の学芸員が研究成果や収蔵品の調査成果等を報告する機会として、各分野の充実した講話を提供。
展示解説会（毎月１回）	展示資料を前に、学芸員がパネルの展示解説文のみでは補いきれない「博物館ならではの最新の調査報告や情報」を紹介。

バックヤードツアー（毎月 1 回）	博物館に対する更なる理解促進を図るため、学芸員研究室、研究資料室（書庫）、自然史実験室、トラックヤード、写真撮影室、冷凍室、工作室、収蔵庫等、普段は見ることの出来ない博物館の裏側を巡るツアーを実施。
夏休み!博物館学芸員教室	学芸員が夏休みの課題に取り組む子供たちを対象に、沖縄の自然・歴史・文化に関する自由研究のテーマを提供。
博物館ボランティア（養成講座）	来館者へのよりきめ細やかなサービス提供を目的として、博物館への支援活動を行うボランティアを募集し、養成講座を実施。
ふれあい体験室	ハンズオン展示の資料を通して、来館者同士、来館者とスタッフ、展示されている“おきなわ”とのふれあい空間を提供。常設展示と補完し合い、実習室や野外体験プログラムとも連携。
移動展	普段、博物館に足を運ぶことができない離島や遠隔地の方々に、当館の収蔵資料を見てもらうため、県内離島等において移動展を実施。（過年度実績：東村、久米島、石垣島、宮古、粟国、渡名喜、西表島）
教育普及資料貸出　等	教育普及活動に資する資料の貸し出し（アウトリーチ）。

２　美術館の活動状況

（１）資料収集、保存管理

美術館には、平成 28（2016）年 3 月 31 日現在で、沖縄の作家を中心に平面・立体・映像・その他で、3,666 件の収蔵資料があります。

（２）調査研究

美術館では、平成 7 年に策定された「沖縄県立現代美術館（仮称）基本計画」の基本的理念・基本的性格を継承し、主に沖縄近・現代美術やアジアのアートに焦点をあて、近代、現代の美術に関する調査研究活動を実施しています。特に海外に関しては沖縄にルーツを持つ移民作家の調査研究も行っています。

（３）展示公開

① 常設展示

コレクション展は、概ね年間２～３期に分けて展示替えを行い、収蔵作品及び寄託作品等をテーマ展示の形式で公開しています。また、本県にとって重要な節目に合わせた展示にも今後積極的に取り組んでいくこととしており、平成 27 年度には戦後 70 年特別企画展として「ニシムイ－太陽のキャンバス－」を実施しています。

② 企画展

企画展では郷土の芸術家や、沖縄ゆかりの国内外の優れた芸術家について、学芸員の調査研究を基にその成果を自主企画展として展示公開しています。企画展は年間 2 回程度実施しています。また、指定管理者による自主企画や貸館による美術企画展も実施されています。

（４）教育普及活動

美術館の教育普及活動は「鑑賞活動の支援プログラム」「実技体験の支援プログラム」「発表活動の支援プログラム」の３つの方針で推進しています。具体的な取り組み内容は以下のとおりです。

図表2　美術館の主な教育普及活動

項目	活動内容
鑑賞活動支援 （キュレーター・トーク、鑑賞ツアー等）	作品の鑑賞をより深めるために各展示担当によるキュレーター・トークや、作品の制作を行った作家や関係者を招き、アーティスト・トーク、ギャラリー・トークを実施。他に鑑賞ボランティアによる鑑賞ツアーを実施。
バックヤードツアー	収蔵庫、修復室、工作室といった通常一般開放していない美術館のバックヤードを案内。学芸員の仕事や美術作品の保存、展示の現場について学ぶ機会を提供。
美術講座（年４回）	美術史を学ぶ機会として、世界・日本・沖縄の美術の流れに関する一般向けの講座を開設。ボランティア対象の講座としても活用。
コレクション・企画展関連シンポジウム	コレクション展・企画展に関連したテーマによるシンポジウムを開催。
ワークショップ	コレクション展・企画展に関連したテーマによるワークショップを開催。
美術館招待事業	県内小中学校の学年単位で毎年度 5～7 校を対象に、児童・生徒をバスで送迎し、コレクション展示作品を使って鑑賞学習指導を実施。毎年度、対象校を公募により決定。
図工・美術担当教員等講座	図工、美術を担当する教職員等への講座を開設。
鑑賞用ワークシート作成	学生向けのワークシートを作成し、作品鑑賞用の補助資料として活用。

３　博物館・美術館共同事業

（１）移動展

国内有数の離島県であるということを踏まえ、離島・遠隔地における文化芸術振興の観点から、毎年離島・遠隔地において移動博物館・美術館を実施しています。

平成 20 年度（東村）、平成 21 年度（久米島）、平成 22 年度（石垣島）、
平成 23 年度（宮古島）、平成 24 年度（粟国島）、平成 25 年度（渡名喜島）、
平成 26 年度（西表島）、平成 27 年度（伊是名島）

（２）その他共同事業

その他共同事業は以下のとおりです。

プログラム	内容
博物館・美術館実習	琉球大学や沖縄県立芸術大学等から実習生を受け入れて教育プログラムを提供するほか、近隣の小中高校生に職場体験の機会を提供。
国際博物館の日	毎年 5 月 18 日は、全世界での博物館活動の普及と向上を目的に、国際博物館会議（ICOM）によって「国際博物館の日」と定められており、パネル展示、バックヤードツアー、キュレーター・トーク、ワークショップなどを実施、無料入館日も設ける。

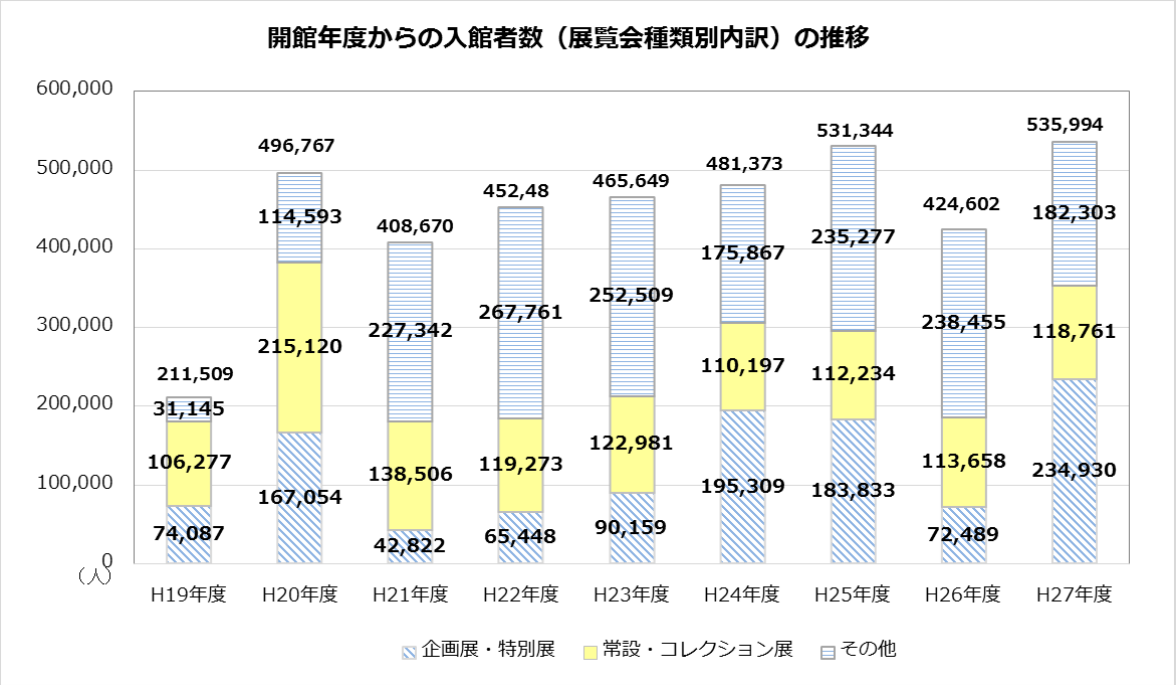
４　施設の利用状況

（１）　入館者数の動向

当館への入館者数（展覧会への入場者以外の入館者も含みます、以下、同様。）は、年間 40～50 万人で推移しています。

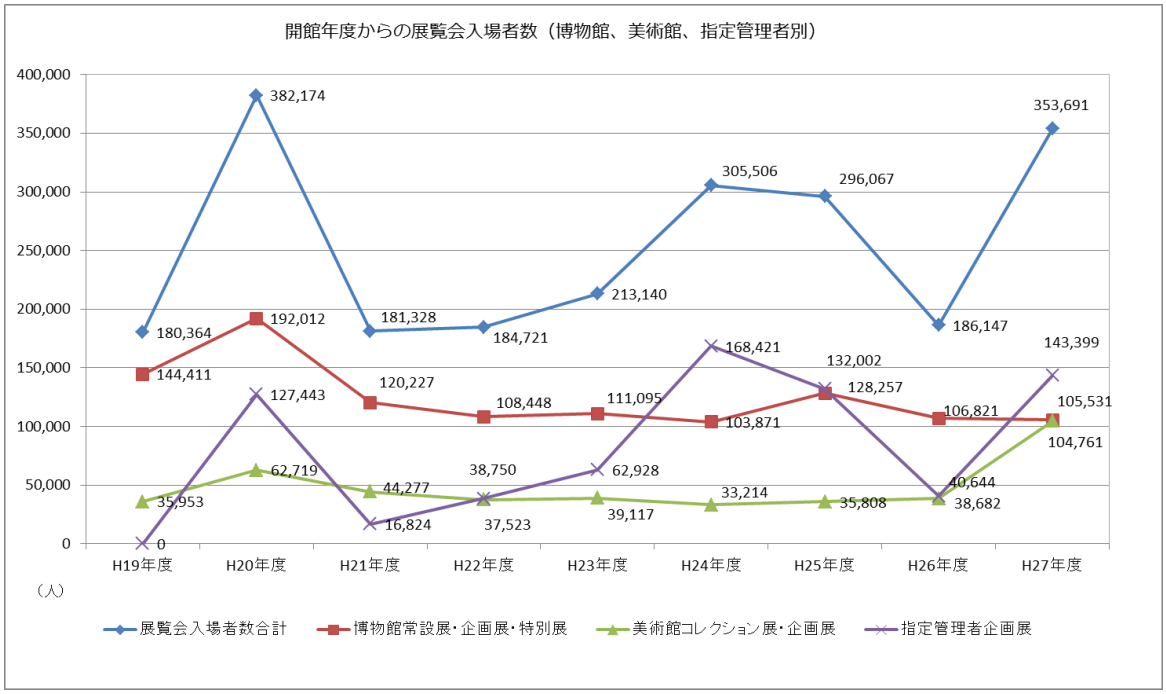
年度	年間入館者数	うち展覧会入場者数
平成 19 年度　※11/1-3/31	211,509 人	183,549 人
平成 20 年度	496,767 人	284,670 人
平成 21 年度	408,670 人	181,265 人
平成 22 年度	452,502 人	184,269 人
平成 23 年度	465,649 人	213,878 人
平成 24 年度	481,373 人	305,506 人
平成 25 年度	531,344 人	296,020 人
平成 26 年度	424,602 人	186,147 人
平成 27 年度（速報値）	535,994 人	353,691 人

平成 27 年度は、入館者数合計約 53 万 6 千人と、平成 19 年の開館以来、これまでに最も多い入館者数となりました。その内訳は、博物館常設展・美術館コレクション展への入場者数が約 11 万９千人（約 22%）、企画展、特別展への入場者数が約 23 万５千人（約 31%）、その他利用者が約 18 万人（約 34%）となっています。当館の収蔵資料を展示する常設展・コレクション展は、開館翌年の平成 21 年度が約 22 万人と最高値を記録し、平成 22 年度以降は年間約 11 万人台の入場者数で推移しています。一方、企画展・特別展の入場者は、平成 21 年度の約４万３千人から平成 27 年度の約 23 万５千人と増減幅が大きくなっています。

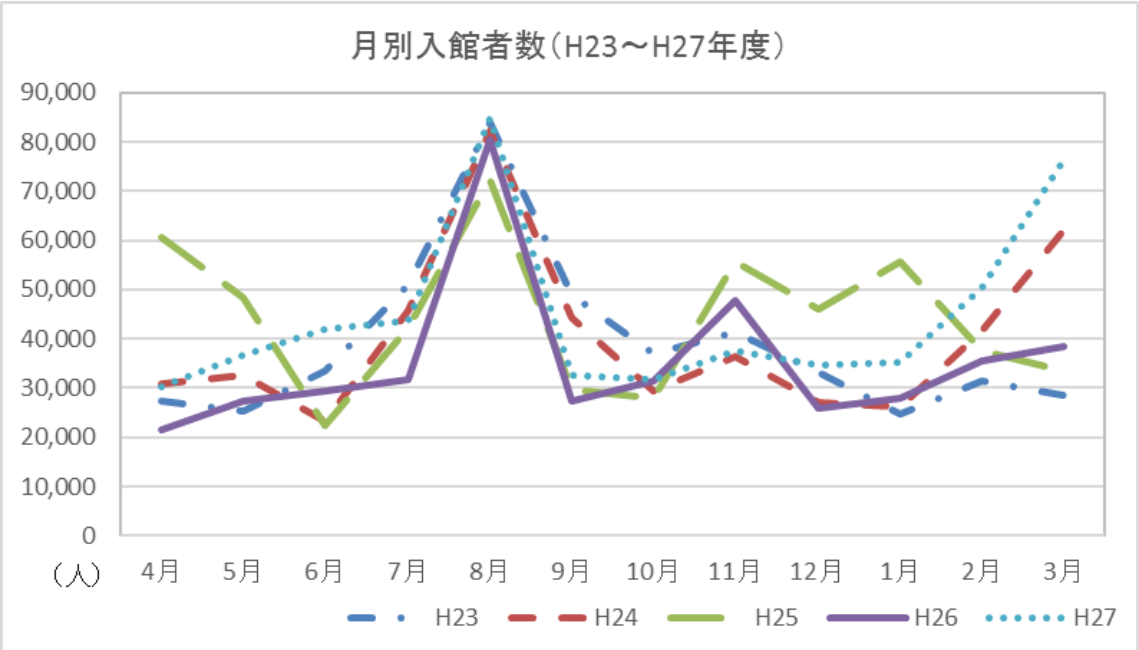


出典）沖縄県立博物館・美術館指定管理者月報

また、博物館、美術館、指定管理者主催別の展覧会入場者内訳を見ると、博物館常設展・企画展・特別展の入場者が年間平均約 12 万人、美術館コレクション展・企画展の入場者が、年間平均約５万人で安定して推移しています。また、指定管理者企画展については、約２万人から 17 万人と増減幅が大きくなっています。



月別の入館者数は、８月の入館者数が多く（ピーク）、６月、10 月、12 月、１月の入館者数が少なくなっています（ボトム）。



出典）「沖縄県立博物館・美術館年報」より作成

５　今後 10 年間で対応すべき課題

沖縄県立博物館・美術館のこれまでの活動及び内外の環境の変化を踏まえ、今後 10 年間で対応すべき課題を以下に整理します。

（１）調査研究・収集体制の強化

今後、戦略性を持った持続的安定的な調査研究体制を構築する必要があります。また、保存・修復を担当するコンサベーターや作品管理を担当するレジストラーを設置し、収蔵資料の管理に対する体制を整備する必要があります。加えて、求心力の高い収蔵作品を収集し、収蔵作品の価値を高める研究を進めることも必要です。

（２）　教育普及活動の強化

沖縄県立博物館・美術館は、これまで、沖縄の自然・歴史・文化等について分かりやすく学習できるよう、文化講座、体験学習教室等を実施してきました。県民の生涯学習の場として大きな役割を担っており、これまでの教育普及活動の効果を検証し、さらに効果的な活動を強化する必要があります。

（３）観光施設としての役割の発揮

沖縄県立博物館・美術館は、これまでの「社会教育」機能だけでなく、沖縄の文化を「観せる」中心的な拠点としての役割を期待されています。

平成 26 年度は入域観光客 717 万人（うち外国人 99 万人）であり、来館者増加のポテンシャルは高いものと見込まれます。平成 24 年度観光統計実態調査（沖縄県）によりますと、国内観光客が「博物館・民俗資料館」を訪れたのが約 16%に対し、「海洋博記念公園」は約 47%となっています。また、平成 26 年度外国人観光客実態調査報告書（沖縄県）によりますと、外国人観光客が当館を訪れたのが約 7%に対し、海洋博記念公園は約 86%となっております。

このような状況を踏まえ、当館が魅力ある観光施設として「集客・交流」機能を高めていく必要があります。

第３章　活動の基本方向

１　沖縄県立博物館・美術館の基本的な使命

第１に、県民の共有財産である沖縄の自然、歴史、文化、芸術に関する資料・作品を体系的に広く収集し、安全に保管して次世代に継承します。

第２に、資料等に関する調査研究を行い、知的財産としての価値を高めます。

第３に、資料収集や調査研究の成果を展示・公開・普及・発信することにより、沖縄の自然、歴史、文化・芸術の「独自性（個性）」と「普遍性」に関する県民や国内外の人々の知識と理解を深めます。

こうした活動により、沖縄の学術・文化の発展と県民の文化意識の高揚、感性豊かな人材の育成、地域の活性化などに貢献していくことが、沖縄県立博物館・美術館の基本的な使命です。

２　沖縄県立博物館・美術館の地域社会における役割

沖縄県立博物館・美術館は、地域の社会教育施設としての重要な役割とともに、国内外から観光客を迎える文化観光施設としての役割を担っていきます。

（１）社会教育施設としての役割

沖縄の未来を担う子どもたちの教育・学習の場として、豊かな感性づくりなどを支援するとともに、沖縄で学び、働き、子どもを育てる若い世代が、展示資料の観覧や芸術作品の鑑賞を通じて将来への希望とロマンを育むことができるような空間を提供するほか、あらゆる世代に対して観覧・鑑賞機会を提供することにより、感性豊かな人材の育成や地域社会の知性・創造性の向上、活性化に貢献します。

（２）文化観光施設としての役割

沖縄県は、世界水準の観光リゾート地の形成を目指し、観光収入１兆円超、入域観光客数１千万人超の実現に向けて取り組んでいます。近年における航空路線の拡充やクルーズ船バース等観光インフラの整備等により毎年多くの観光客が訪れ、加えて平成 32 年度の那覇空港第 2 滑走路供用開始により、さらなる観光客の増加が見込まれています。本県が持続的に発展していくためには、県民はもとより本県を訪れる観光客の多くが、本県の豊かな自然環境と風土・伝統に根ざした文化の価値を理解し尊重していくことが重要であり、本県を総合的に紹介する空間を提供しその理解促進に貢献します。

３　目指す将来像

平成 29 年には、当館が開館 10 周年の節目を迎えることから、本中長期計画の期間を当館の次なる 10 年間の新たなステージに進む発展期と位置づけ、長期的展望を見据えながら、調査研究、収集・保管等の本来的機能や教育普及・発信等の各機能をより高め、社会における期待に応えていくことが求められています。このことから、多くの人々が利用しその活動に参加している以下の状態になることを目指します。

（１）さらに多くの県民・観光客に親しまれる博物館・美術館

沖縄の自然・歴史・文化・芸術が総覧できる施設として県民・観光客に認知されている。開館当初に設定した年間入館者数 50 万人超が常態化し、かつ、県外・国外観光客の来館が増加している。また、館内外での文化・芸術活動に関わる人が増えている。

（２）沖縄の個性・独自性が最大限発揮される博物館・美術館

地域性が高く、特長的な調査研究の実績・蓄積がなされている。また、沖縄の個性･独自性を持つ文化･芸術が楽しめる施設として県内外に認知されている。また、沖縄の文化・芸術を発信する拠点となっている。

（３）国際交流・全県的なネットワークを構築している博物館・美術館

アジア太平洋地域における沖縄の自然・歴史・文化の調査研究情報のネットワークを構築している。また、アジア太平洋地域における修復技術に関するネットワークに参画・貢献している。

（４）より適切な保存管理を追求し続ける博物館・美術館

収蔵資料・作品の適切な保存管理が行われ、文化財の公開に適した「公開承認施設」として文化庁から承認され、重要文化財等の公開活用がなされている。

また、文化的、芸術的資料の修復拠点として県内外から認知されている。

４　目指す将来像を実現するための取組方針

（１）　本来的機能を高める

沖縄の個性・独自性が最大限発揮される調査研究を強化するとともに、計画的かつ安定的な収集・保管・修復を展開する。また、研究者の調査研究活動・作家の創作活動を支援する環境の向上を図ります。

（２）　県民・県外客との関わり方を深める

魅力的な展示・教育普及プログラムを展開するとともに、収蔵資料・作品の新たな

活用を展開します。また、県民・来訪者の多様な文化芸術活動を支援する環境の向上を図ります。

（３）　連携・協働のネットワークを強化する

県内の研究機関・教育機関との連携を強化し、県内の情報ネットワークの拠点性を発揮します。また、国際的な研究・芸術活動ネットワークへ積極的に参画・貢献します。

（４）　期待される社会的役割に貢献する

県民ニーズに応える多様な取組を展開するとともに、中核的な文化観光施設としての役割・機能を発揮します。また、沖縄県の伝統工芸等の産業振興など、関連他分野に貢献します。

第４章　基本的な活動計画（将来像の実現に向けた取り組み）

１　重点取組

活動に際しては、博物館、美術館、それぞれが独自性を最大限発揮していることが重要であり、その上で、博物館・美術館が一体の施設であることから生じる効果を生かしていくよう取り組みます。

重点取組の主な内容については、沖縄県や県立博物館・美術館における重要な節目等を踏まえて、取組の連動性に留意しながら、計画的に実行していくことが重要です。

（１）本来的機能を高める

①　沖縄の個性・独自性が最大限発揮される調査研究の強化

＜共通事項＞

関係機関と連携しながら、人材の専門性と活動の継続性を高め、戦略的な調査研究を実現します。

（具体的取組）

〇専門学芸員の育成

〇館の方針に沿った調査研究活動の充実

〇館の方針に沿った研修の充実

＜博物館＞

沖縄の個性・独自性が最大限発揮される調査研究を強化します。

定期的に調査研究成果を反映させた常設展示へのリニューアル等（部分的なものを含む）を行います。また、沖縄県や当館における重要な節目等を捉えた企画展・特別展を行うとともに、新しいデジタル技術の導入や、展示解説の多言語対応を図るなど、魅力的な展示に取り組みます。

（具体的取組）

研究成果の発表・発信のための環境整備、沖縄に関する分野の研究のサポートの実施、沖縄に関する分野の研究者・専門家の情報集約の仕組みを構築します。

〇自然史分野

・人類化石等に係る調査（サキタリ洞遺跡発掘調査等）

〇美術工芸分野

・琉球王国時代の美術工芸製作技術（手技）の集積再興

〇民俗分野

・離島を含め県内各地に所在する民話の活用検討

＜美術館＞

県内外に収集方針を広く発信しながら引き続き作品収集を積極的に行うとともに、沖縄の個性・独自性が最大限発揮される調査研究をさらに強化します。

（具体的取組）

〇特色ある新たなテーマ（「移民」「ミックスルーツ」等）による調査研究の実施

〇文化財指定を見据えた収蔵作品の調査研究の実施

〇博物館の調査研究・収集・保管における知見・手法を採用した調査研究の実施

② 計画的かつ安定的な収集・保管・修復の展開

＜共通事項＞

現在、外部委託している資料修復について、専門職員を配置するなど、計画的かつ安定的な収集・保管・修復を実現するとともに、「公開承認施設」として文化庁に承認されるよう、当館の展示環境の最適化に取り組みます。

＜博物館＞

調査研究を通じて収集した各種資料の整理、データベース化を推進し、多様な活用に資するよう保管・修復を行います。

また、琉球王国文化遺産集積・再興事業を契機として、世界の琉球・沖縄資料のデータベース化やネットワーク化などに取り組みます。

（具体的取組）

〇県内各地の民話のデジタルデータベース整備・活用方策の展開

〇収蔵資料のデジタルデータベース化の推進

〇世界の琉球・沖縄資料のデジタルデータベース化等の推進

〇資料の増加を見据えた収蔵計画の策定（第２収蔵庫の検討）

〇貴重な収蔵資料の修復の推進

〇収蔵資料の再整理による資料への新たな意味づけ等の推進（研究、展示内容への反映）

＜美術館＞

計画的かつ安定的に作品を収蔵するとともに、総合的な管理・活用のためのデータベースを再構築し、情報の発信や共有化を強化することで来館者サービスの向上を図ります。併せて美術資料に関する県内外の他館・他施設等とのネットワークの構築にも取り組みます。

当館が収蔵する膨大な数の修復を必要とする美術作品・資料について、年間当たり相当程度の修復が可能となる仕組みの構築に取り組むとともに、特に優先度が高い作品については修復強化期間を設けるなど、集中的な修復の事業化等を実施する。

（具体的取組）
〇専門学芸員の育成
〇資料の修復・保存のための人材の確保
〇総合的な管理・活用のための美術資料データベースの再構築
〇当館が収蔵する美術資料のＷＥＢ公開
〇美術資料に関する県内外の他館等とのネットワークの構築
〇収蔵資料の活用計画と連動した修復計画の策定

③　研究者の研究活動環境・作家の創作活動環境の向上

＜共通事項＞

県民及び国内外からのレファレンス対応機能をより高めるため、情報センターを中心とした館内の情報連携・対応の仕組みを再構築し、その円滑な運用を図ります。

（具体的取組）
〇情報センターを中心とした情報連携・対応の仕組みの再構築によるレファレンス機能の向上
〇情報センターのより効果的な運用方法の検討
〇レファレンス対応に係る支援団体との新たなパートナーシップの構築検討

＜博物館＞

博物館の所掌する調査研究分野の情報ハブ、博物館のネットワークハブとしての機能を高めるため、県内における各分野の学識者・専門家・研究者情報の蓄積、データベース化を行い、レファレンス等に際しそれらの活用を促進する。

（具体的取組）
〇沖縄に関する分野の研究のサポート実施
〇沖縄に関する分野の研究者・専門家の情報集約の仕組み構築

＜美術館＞

アーティストの創作活動の拠点性を高めることを目指し、アーティストとの協働型のプログラムの実施を検討し、展開する。

（具体的取組）
〇国内外アーティストとの協働型のプログラムの実施

（２）県民・観光客等来館者との関わり方を深める

①魅力的な展示・教育普及プログラムの展開

＜共通事項＞

従来の移動展について、より効果的な実施方法を研究し、アウトリーチ活動の拡

張・強化を図る。

また、現在博物館と美術館それぞれで行っている教育普及の運営体制の連携を図り、支援団体とのパートナーシップを高め、より魅力的な教育普及活動を展開します。

（具体的取組）

〇博物館、美術館連動企画実施（開館 10 周年等）
〇展示テーマ・内容等で連携した定期的な企画展示の実施
〇移動展（アウトリーチ強化策）のより効果的な実施
〇博物館、美術館一体となった教育普及活動の企画・実施
〇ホームページ情報発信の強化による広報集客力の向上
〇館内スタッフ強化による来館者満足度の向上

＜博物館＞

沖縄県や県立博物館・美術館における重要な節目等にあわせて、定期的に調査研究成果を反映させた常設展示のリニューアル（部分的なもの含む）や企画展・特別展等を行うとともに、展示分野における新しいデジタル技術の導入や、展示解説の多言語対応を図るなど、来館者にとって分かりやすく、魅力的な展示を行います。また、ふれあい体験室のハンズオン展示を活用し、来館者が楽しみながら沖縄の歴史、文化等に対する理解を深められるよう取り組みます。

（具体的取組）

〇常設展示室の魅力向上
・「万国津梁の鐘」を中心とした展示魅力アップ
・自然史部門（人類、考古、民俗）の改善
・歴史部門（近現代コーナー）の改善（復帰 50 周年を目途）
・展示室におけるデジタル技術活用の推進
〇ふれあい体験室の機能強化
〇解説ボランティア組織体制の整備（多言語対応含む）

＜美術館＞

美術館では、沖縄及び沖縄ゆかりの作家の作品を引き続き展示するとともに、県外・国外の芸術作品の展覧会を実施し、島しょ県に住む沖縄県民が県外の優れた作品を鑑賞する機会を提供します。また、小中学校をはじめ高等学校、美術・デザイン系の専門学校等との連携を強化し、美術ファンの裾野を広げる教育普及を展開します。

来館者が触れて楽しめるハンズオンのアート体験キットを作成するなど、さらに魅力的な展示を実施します。

（具体的取組）

〇沖縄の地域性を活かした大規模な国際共同展の開催

〇社会ニーズに対応した、求められる企画展の開催
〇沖縄及び沖縄ゆかりの作家企画展等の継続実施
〇美術館新規来館者拡大に向けた取組の実施（美術ファンの拡大）
〇鑑賞・実技体験のバリアフリー化の推進
〇コレクション展示室の弾力的な企画運用

②収蔵資料・作品の新たな活用方策の検討・展開

＜博物館＞

収集した各種資料のデータベース化（民話のデジタルデータを含む）を実施し、ホームページでの公開や、展示室における新たなデジタル技術の活用検討にあわせ、収蔵資料やそのデータの新たな活用の展開を検討します。

沖縄県は戦災を受けた資料が多いことから、その活用方策について検討を進めます。

（具体的取組）
〇博物館の収蔵資料・調査研究等のデータベース公開及び外部からの利用促進
〇戦災等により部分的に残った残欠資料からの復元等の調査研究の推進
〇展示室内におけるデジタル技術の活用

＜美術館＞

収蔵作品のデータベース化を進め、当館ホームページ上で公開します。また、多言語化を推進し、国外からの来館者や美術館関係者に対し、情報発信を強化します。

（具体的取組）
〇当館ホームページでの収蔵作品情報の公開の強化
〇多言語に対応したデジタルコンテンツの作成・情報発信

③県民・観光客等来館者の文化芸術活動の環境整備

＜共通事項＞

沖縄県立博物館・美術館のブランド化を推進し、情報発信等を強化するなど、県民や観光客が来館しやすい環境を整備します。

当館の各支援団体（博物館友の会・美術館支援会 happ）による展示交流員・監視員、ボランティアによる教育普及事業への支援、展示ガイド等の取組を継続・発展させます。

ホームページのスマートフォン・多言語対応等、館の情報発信の強化を図るとともに、エントランスホールにおける情報発信の強化（各案内表示整備、デジタルサイネージの導入等）、ふれあい体験室のユニバーサルデザイン化等、来館者にとって表示案内の分かりやすさを向上するとともに、来館者に対する職員の接遇の向上を図ります。

また、当館に関する統計やアンケート（来館者・未来館者）の精度を向上させ、当館の環境整備に反映させることにより、来館者の満足度向上を目指します。

（具体的取組）

〇沖縄県立博物館・美術館のブランド化の推進

〇館内情報発信の強化（施設案内表示の整備、デジタルサイネージ導入、多言語化）

〇ホームページの改善（スマートフォン・多言語対応）、季刊誌発行等による館外情報発信の強化

〇広報専門スタッフの配置等による広報・集客強化

〇SNS の活用促進

〇来館者等の統計（アンケート）の改善向上

＜博物館＞

県民はもとより、県外、国外からの観光客の展示物への理解促進が図られるよう継続的に取り組みます。また、ふれあい体験室の機能強化を図り、子ども達をはじめとする利用者の活動環境の向上を図ります。

（具体的取組）

〇博物館ボランティアの組織体制の整備・拡張（展示解説、外国語対応）

〇ふれあい体験室の機能強化

＜美術館＞

美術ファンの拡大に向けた諸施策を展開するとともに、開館 15 周年を目途に、全ての方が楽しめるよう、鑑賞、実技体験におけるバリアフリーサービスの提供の開始を目指します。

（具体的取組）

〇新規来館者拡大施策の検討実施

〇鑑賞・実技体験のバリアフリーサービス提供の検討

〇利便性の高い創作活動の場としての環境整備

〇情報センターにおける美術関連資料の充実

（３）県内外とのネットワークを強化する

①県内外の研究機関・教育機関との連携強化

＜共通事項＞

子ども達の自然、歴史、文化、芸術の教育フィールドとしてのプログラムを充実させます。

沖縄県立芸術大学（以下「芸大」。）や琉球大学等、県内の学術ネットワークを構築し、調査研究に関する受発信力を強化します。また、共同研究、人材交流等を通じて

実務的な連携を促進します。

（具体的取組）

〇教育現場の教員の研修の場としての機能の整備

〇県立芸大卒業展の開催

〇若手アーティストの発掘

〇国内外への発信

〇公募展の開催

〇国内外のネットワーク活用による発信

〇県立芸大・琉球大学等との連携による学芸員・研究者等専門人材の育成（学生インターンの受け入れ等）

②県内外施設との情報ネットワークの中心性強化

＜共通事項＞

県下の収蔵資料等に係る情報集積・整理を行い、災害時対応において中心的な役割・機能を果たすための取組を行います。また、九州博物館協議会や日本博物館協議会等、県外関係機関との情報共有等により連携を図ります。（収蔵資料災害対策マニュアル作成、対応ネットワーク形成の促進）

（具体的取組）

〇県内施設の収蔵資料・調査研究、県内作家や県内施設の展覧会に関する情報集約・問い合わせへの対応

〇県内外施設からの資料修復・保護に関する相談への対応

〇収蔵資料災害対策（マニュアル）の作成

〇災害時の当館及び他館における収蔵資料・作品の保護マニュアル作成検討（文化財等所在把握を含む）、災害時対応ネットワーク形成方策の研究

③国際的なネットワークへの参画・貢献

＜共通事項＞

国際博物館会議（以下、「ICOM」。）への加盟や、ICOM 大会、国際委員会の研究成果発表等への参加を検討するとともに、沖縄での分科会や国際委員会の開催検討を促進する等、国際的な学術ネットワークにおける受発信力を強化します。

また、国外他館等と連携した国際シンポジウムの開催等、国際的な連携に向けた取組の検討を行います。

（具体的な取組）

〇研究活動及び研究成果の発信強化

〇修復技術研究及び情報発信の強化促進

〇アジア太平洋地域ネットワークにおける修復技術に関する貢献

〇海外のキュレーター・有望アーティストとの関係強化
〇ICOM 大会への参加検討
〇ICOM 国際委員会等の開催検討の促進
〇海外の同種施設・研究機関等との関係構築の推進

（４）期待される社会的役割に貢献する

①県民ニーズに応える多様な取組の展開

＜共通事項＞

県立の文化･芸術拠点施設として、当館及び指定管理者による展示会にとどまらず、県民による文化・芸術の催事が活発に行われている状態を目指します。

（具体的取組）

〇貸館の際の文化・芸術優先受付の推進

＜博物館＞

沖縄県や当館における重要な節目等を踏まえた企画展・特別展の開催等により、県民の社会教育の場・機会を提供します。

県が策定する関連計画や、関連する政策・施策等において、当館が実施主体として効果的な役割を果たせるものに関しては積極的にその役割を担います。

（具体的取組）

〇沖縄県や当館における重要な節目等を踏まえた企画展・特別展の開催
〇生物多様性おきなわ戦略の推進主体としての参画
〇サキタリ洞遺跡発掘調査（博物館常設展・自然史部門展示への反映）
〇琉球王国手技の集積再興（世界の琉球・沖縄資料のネットワーク化）
〇資料のデジタルデータベース化の推進（展示室内デジタル技術の活用）

＜美術館＞

芸大等との連携により、アートやアーティストと地域コミュニティを結ぶ（アートコミュニケーション）ための場の提供等の貢献を行います。また、県内では鑑賞することが難しい県外・国外の優れた美術に触れる機会を提供します。

（具体的取組）

〇アートコミュニケーション事業の展開
〇県外・国外の優れた美術を鑑賞できる企画展の開催
〇地域住民・企業等とのアートのまちづくりに向けた協働
〇データベースの拡充・整備及び公開（沖縄美術のデータのネットワーク化）

②県内の中核的な文化観光施設としての機能の発揮

＜共通事項＞

中核的な文化観光施設としての機能を発揮するため、指定管理者と連携し、当館を訪れる県外・国外観光客の正確な実態把握に取り組みます。また、県内の文化観光施設との情報連携を図り、観光関連事業者とのタイアップを図る等、観光客の誘客に向けた取組を推進します。

（具体的取組）

〇県外・国外観光客の実態調査

〇県内文化観光施設との連携強化

〇観光客誘致における観光事業者とのタイアップ

＜美術館＞

那覇市や那覇新都心通り会等と連携し、アートのまちづくりなど、周辺エリアの創造性・集客交流性を高めることに貢献します。

（具体的取組）

〇沖縄の地域性を活かした大規模な国際共同展の開催に向けた取組の検討

〇社会ニーズに対応した求められる企画展の実施

③沖縄県の伝統工芸等産業振興への貢献

＜共通事項＞

琉球王国文化遺産集積・再興事業を契機に、伝統工芸等に係る失われた技の伝承・再興に係る調査研究を進め、現代における伝統工芸等の分野の関係者が製作技術を確認できるようにするなど産業振興に貢献を行います。また、指定管理者等において、収蔵品等をモチーフにデザインされた新しい商品開発に取り組めるよう連携を強化します。

（具体的取組）

〇技の伝承・再興に係る調査研究の進展

〇収蔵品等を活かしたオリジナルグッズ・コラボ商品等の開発に関する連携強化